

WHO ファクトシート

日本脳炎

Japanese encephalitis

2015 年 12 月

重要な事実

- ・日本脳炎(JE)は、デング熱、黄熱病、西ナイルウィルスと近親関係にあるフラビウィルスで、蚊によって感染が広がる。
- ・日本脳炎は、アジアの多くの国でのウィルス性脳炎の主要原因であり、その数は毎年ほぼ 6 万 8000 症例に達する。
- ・日本脳炎の発症は稀であるが、脳炎を併発した場合その致死率は最高で 30%程度になる。また、脳炎を併発した場合の恒久的な神経や精神面の後遺症が残る可能性は、30～50%にとなっている。
- ・WHO 南東アジア地域、西太平洋地域にある 24 カ国は、日本脳炎の流行地域であり、30 億人以上が感染リスクに晒されている。
- ・この疾病の根治療法はない。治療は重篤な臨床症状を緩和し、患者が感染を克服することを支援することに焦点を当てている。
- ・日本脳炎の予防には、安全で効果的なワクチンがある。WHO は日本脳炎が公衆衛生上の課題となっている全ての地域で、日本脳炎ワクチン接種が国家予防接種計画の中に組み込まれることを推奨している。

© World Health Organization

この文章は、日本 WHO 協会が WHO のメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014 年 3 月に WHO 本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含め WHO ホームページでの原文をご確認ください。

Japanese encephalitis ファクトシート原文は [こちら](#)